

# 愛別町 水田フル活用ビジョン

(平成29年度)

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

愛別町は、全耕地面積に占める水田の割合が90%を占めており、うるち・もち・酒造好適米の主食用米及び加工用米・備蓄米・飼料用米・WCS用稲の水稻を中心とした生産調整と水田を活用した土地利用型作物（麦・大豆・飼料作物・そば等）・野菜の生産を行っている。

地域の課題として、国営緊急農地再編整備事業による、大規模な圃場整備の工事初年度であり、圃場の大区画化に伴う、作業体系の確立が急務であるとともに、さらに農地の流動化が進むことが予測されることから、農地中間管理機構を活用しながら、中心となる担い手の育成が必要である。

## 2 作物ごとの取組方針

町内（出作面積を含む。）の約1,500ヘクタールの水田について、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

### (1) 主食用米

売れる米作りのため、愛別町米麦生産振興協議会で定める栽培基準の徹底とYES! clean、特別栽培等の作付面積の拡大と低タンパク・高整粒の高品位米の生産量の増加を図り、米の産地としての地位を確保する。需要動向や集荷団体等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。また、ニーズに対応したうるち米・もち米・酒造好適米の生産と安定取引を推進する。

### (2) 非主食用米

#### ア 飼料用米

主食用の需要及び生産目標数量の減が見込まれる中、水張り面積を現在と同程度確保することが必要であるため、加工用米・備蓄米とともに水田を活用した生産調整作物の中心に位置づけ、国からの産地交付金（追加交付枠を含む。）を活用し、複数年での契約栽培、多収性品種の導入及び団地化を推進する。

また、畜産農家から需要のある「もみ米サイレージ（もみサイレージ）」化を推進する。

#### イ 米粉用米

現在、米粉用米の生産を行っていないが、実需者からの要望があった場合は、生産の振興を推進する。

#### ウ WCS用稲

飼料用米との需給バランスを考慮した生産の振興を図る。

また、安定的な供給を図るため、複数年での契約を締結することを推進する。

なお、WCS用稲については、麦・大豆・そばなどの生産調整作物から主食用米や加工用米の生産に切り替える際に、水稻作付面積の確保及び高品質の主食用米の生産を目指し、WCS用稲を取り入れることを推進する。

## エ 加工用米

飼料用米とともに水田を活用した生産調整作物の中心に位置づけ、生産の推進を図る。また、国からの産地交付金（追加交付枠を含む。）を活用し、うるち米・もち米・酒造好適米の3種類の米を生産している産地として、複数種類での販売などにより、実需者との結びつきを強化するとともに安定的な供給を行う。

## オ 備蓄米

飼料用米・加工用米とともに水田を活用した生産調整作物の中心に位置づけ、生産の推進を図る。また、国からの産地交付金（追加交付枠を含む。）を活用し、安定的な供給を行う。

## (3) 麦・大豆・飼料作物

### ア 小麦

実需者のニーズに合わせ、秋まき小麦・春まき小麦の生産を振興する。排水対策、土壌診断に基づく堆肥の施用を推進する。

### イ 大豆

実需者のニーズに合わせ、白大豆・青大豆・黒大豆の生産を振興する。排水対策、土壌診断に基づく堆肥の施用を推進する。

### ウ 飼料作物

牧草・デントコーン・エン麦サイレージ・青刈り大豆については、団地化の推進を図り、畜産農家と連携をした生産を図る。

## (4) そば

高品位のそばの生産を図るため、耕耘同時畝たて播種を推進し、排水対策、土壌診断に基づく堆肥の施用を推進する。

## (5) 野菜

「きゅうり・米なす・ミニトマト」を重点振興作物、「アスパラ・かぼちゃ・トマト・サヤインゲン・ねぎ」を振興作物、「ししとう・スイートコーン・生食用ばれいしょ・春菊・オクラ・わらび・メロン・枝豆」を奨励作物と設定し、生産の拡大を図る。

## (6) その他の作物

実需者の幅広いニーズに対応するため、連携・情報交換を行い、需要に応じた作物の栽培（小豆・きび・菜豆など）を推進する。

## (7) 地力増進作物・景観形成作物

地力増進作物・景観形成作物については、輪作体系の一環として取組みや土づくりを目的とした取組みを推進する。

## (8) 不作付地の解消

現状の不作付地については、育苗・砂利採取・基盤整備などの一時的な不作付以外は、ほとんど無い状況であることから、農地中間管理機構を活用しながら、今後も不作付地が発生しないように指導を行っていく。

(9) 耕畜連携

飼料用米の稲わら利用については、飼料用米供給先から稲わらの供給も求められていることから、需要に応じた利用の促進を図る。なお、農薬の残留等を考慮し、もみ米サイレージでの取り組みに限る。その他の取組については、必要に応じて検討を行う。

(10) 二毛作

現在、二毛作の取組を行っていないことから、必要に応じて検討を行う。

### 3 作物ごとの作付予定面積

(単位：ha)

作物	28年度作付面積	29年度作付予定	30年度作付目標
主食用米	843.8	841.1	845.0
うるち米	530.6	527.2	530.0
もち米	296.5	288.1	295.0
酒造好適米	16.7	25.8	20.0
非主食用米	218.1	233.1	225.0
加工用米	45.3	84.8	88.0
備蓄米	41.9	0.0	0.0
飼料用米	89.4	107.3	92.0
うちもみサイレージ	72.7	85.8	77.0
WCS用稲	41.5	41.0	45.0
麦	27.0	21.3	27.5
大豆	56.5	51.5	60.0
飼料作物	194.5	188.8	188.0
そば	87.7	83.6	90.0
その他の地域振興作物	67.5	75.7	59.6
野菜	15.0	14.1	18.0
小豆	4.5	3.4	8.0
雑穀(きび)・菜豆	11.9	11.9	9.0
地力・景観作物	11.4	13.5	12.0
その他	24.7	32.8	12.6
計	1,495.1	1,495.1	1,495.1

### 4 平成28年度に向けた取り組み及び目標

(単位：ha)

取組番号	対象作物	取組	分類	指標	平成28年度 (現状値)	平成29年度 (目標値)
1	飼料用米	もみサイレージ化の推進	ウ	需要のある飼料用米の「もみサイレージ化」に取組むもの	72.60	86.00
2	WCS用稲	水稻転換	ア	生産調整作物から水稻作付への転換を図る前作として取組むもの	1.07	5.80
3	飼料用米 WCS用稲	複数年契約の導入	ア	実需者との複数年契約により栽培に取組むもの	130.69	148.50
4	飼料作物 小麦 大豆 飼料用米 WCS用稲	対象作物の団地化	イ	団地化による作業の売りの向上によるコストの低減に取組むもの	229.17	232.50
5	飼料作物 そば 飼料用米 WCS用稲	対象作物の安定的生産量の確保	ア	担い手による作付	283.67	296.00

取組 番号	対象作物	取 組	分 類	指 標	平成28年度 (現状値)	平成29年度 (目標値)
6	小麦 大豆 小豆 きび 菜豆	対象作物の安 定的生産量の 確保	ア	担い手による作付	88.87	89.70
7	振興野菜	対象作物の安 定的生産量の 確保	ア	担い手による作付	8.78	10.50
8	重点振興野 菜	対象作物の安 定的生産量の 確保	ア	担い手による作付	1.44	2.00
9	小麦 大豆 そば きび 奨励野菜	有機肥料の施 用	イ	成分分析された堆肥の施 用(1t/10a以上)によ る化学肥料の低減に取組 むもの	36.19	46.70
10	振興野菜 重点振興野 菜	有機肥料の施 用	イ	成分分析された堆肥の施 用(2t/10a以上)によ る化学肥料の低減取組む もの	0.79	2.20
11	振興野菜 重点振興野 菜	有機肥料の施 用	イ	成分分析された堆肥の施 用(4t/10a以上)によ る化学肥料の低減に取組 むもの	6.01	7.40
12	そば	生産数量確保	ア	初期生育の確保や排水対 策等の実施により、高品質 の生産に取組むもの	0.00	20.00
13	飼 料 用 米 (もみ米サイ レージ)	稲わらの利用 (耕畜連携)	ア	飼料用米(もみ米サイレー ジ収穫直後)の稲わらのサ イレージ化	0.00	2.20

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり